

<要旨>

近年、台風等による大雨によって川の氾濫、住宅が浸水するなど全国各地で甚大な被害をもたらしている。その中で、問題になっている住民の逃げ遅れ、避難所での孤立を無くすために平時から自分の住んでいる場所がどのようなリスクがあるのか「知る」、避難行動に向けた課題に「気づく」、どのように避難するか「考える」ことを手助けするツールとして開発された住民一人ひとりの防災計画であるマイタイムラインに注目。

本研究においては、マイタイムラインがもたらす効果を提言するために過去の豪雨災害時に自助によって被害を免れた好事例をいくつかあげ必要性について理解を得るとともに、豪雨災害時に被害を最小限に食い止めている自治体の特徴として、積極的にマイタイムラインキットを配布、作成講座を開いている。こうした自治体を参考に普及率向上にむけた提言をしていく。